

道

～高校は、「社会に出て通用する力を身につけ、その力の使い方を学ぶ」ところ～



さて、今回は、学科について振り返ろうと思います。

普通科	<p>他の学科と比べたとき、特徴がないというのが特徴です。高校では中学よりも教科の内容が細かく分かれていますが（国語なら現代国語・古文・漢文・演習など）、勉強する教科は中学校に近いです。選択できる授業はそれほど多くなく10～20単位です。</p> <p>＜普通科専門コース制＞普通科よりも選択できる専門的な科目が多いのが特徴。</p> <p>例）北摂つばさ高校（人文ステップアップ、社会文化コミュニケーション、美術工芸表現）。芥川高校（グローバル専門コース）。高槻北高校（教志コース）</p>
専門学科	<p>25単位以上の専門科目を学習するので、普通科の人よりも深い内容を学ぶことができます。大学進学では専門科目を勉強する分だけ不利になるという人もいますが、勉強の内容によっては有利に働くこともあり一概には言えません。不足する分については自分で補っているようです。しかし資格取得のチャンスも多く、専門的な勉強をしている分就職ではかなり有利ですし、大学についても推薦入学で有利になることもあります。</p>
	<p>＜文理学科＞</p> <p>内容的には普通科に近いようです。問題解決学習を中心に、プレゼンテーションや発表の場が多いのも特徴です。修学旅行先は海外と決まっています、行き先も自分たちで決められるようです。</p>
	<p>＜国際文化科＞</p> <p>英語力向上はもちろん、「異文化理解」の授業や情報機器を活用して国際理解を深める授業などもある。選択授業で英語以外の語学（中国語、韓国語、仏語、独語）が選べる。外国語で色々なことができるようになることをめざす。</p> <p>例）千里高校</p>
	<p>＜総合科学科＞</p> <p>アメリカの選択をいく科学高校のカリキュラムを取り入れた学科。</p> <p>理数科目の授業数が多く、毎日数学と理科がある。「科学探求」の授業や実験により、分析・検証や発表などの経験を積み、論理的思考を身につける。</p> <p>例）千里高校</p>
<p>＜総合学科＞</p> <p>高校で勉強する授業の半分に当たる40～50単位を、総合選択科目と自由選択科目で学びます。専門学科と比べると内容の専門性は低くなりますが、より広い内容の学習ができます。高校ごとにいくつかの系列があり、選択した系列の授業を受けます。</p> <p>例）福井高校（国際コミュニケーション、福祉保育ヒューマニティ、健康スポーツ、芸術ライフ、情報メディア、総合サイエンスの6つの系列）。柴島高校（コミュニティー、グローバル、ヒューマン、ライフ、ネイチャーの5つの系列）。</p>	
<p>＜工業系＞</p> <p>大阪府立の工科高校では、一括募集という形で入学して1年生の時にどの系に進むかを選択し、自分の興味のある勉強を行えます。大阪市立の工業高校は、学科別に募集しています。</p> <p>例）茨木工科（大学進学専科と工業科の機械系、電気系、環境化学システム系の3つの系に分かれる）。都島工業（機械・機械電気、建築・都市工学、電気電子工学、理数工学）</p>	

～私学フェア KYOTO のチラシに関して～

京都の私学フェア（6/14）は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止になりました。チラシの裏に、6月から8月に実施される各学校のオープンキャンパス・体験学習などの日程が載っています。申し込みが必要なものは、事前に申し込みを済ませて参加してください。また、この状況ですので、当日実施されるかどうかは、直前にホームページで確認してから参加するようにしてください。



読みもの

『一流大学出身』というハンデ

今までの日本は、終身雇用（一度入社した人は、よほどのことがない限り、企業はクビにしない）・年功序列（年をとるにしたがって会社での地位や給料が上がっていく）が常識であった。だから、いい高校、いい大学へ進学し、一流大学卒業というブランドを身につけ、いい会社に入ればそれで一生いい生活ができた。ところが今、そういう制度が崩れ、実力主義の世の中になってきたという。企業は本当に仕事のできる人材を求めるようになり、必ずしも有名難関大学出身者が、有能な人物とは限らないことに気づいたのだ。そこで、指定校制（うちの企業は〇〇大学出身者しか採用しませんという方針）を廃止し、入社試験の内容も、ペーパーテストの学力だけでなく、もっとほかの見方をする企業が増えてきた。具体的に言えば、どこの学校を出たかは問題にせず、そこで何を学び、何をやってきたのかを問うようになったのだ。

それについてはこんな例がある。ある会社では一流大学出身の新入社員に対して、次のような話をしたという。「おそらく君たちは一流大学へ進学するために、一生懸命勉強してきたであろう。その努力は尊いものだ。しかし、そのかわりに大切なものを犠牲にしてきたことも事実だ。しんどいクラブ活動を敬遠し、人のために働く委員会活動にも消極的で、時には当然の義務である掃除をさぼって勉強に打ち込んできた人もいるのではないか。今の会社はそのような人物は求めてはいない。時には人の中心となり、時には人の陰に回り、仲間とともに仕事を進められる人材が必要なのだ。『たとえ失敗しても、もう一度あの人と一緒に仕事がしたい。』と、人から思われるような人間性をもった人物がほしいのだ。君たちは一流大学出身という自負を持ってこの会社に就職してきたことであろう。しかし、そのことが会社ではハンデになるということを知ってもらいたい。君たちがこれからこのハンデを克服していくことを期待する。」

これは嘘のような話だが、事実あったことだという。中学3年生の君たちは、今、自分の進路決定のためにいろいろな思いを持っていることだろう。しかし、どこの高校へ入るかということが問題なのではなく、そこで何を学ぶか、何をするか問題なのだということを知ってもらいたい。

最後に、こんな話も聞いたので紹介しよう。

ある超一流と言われる大学を出た人が卒業式の日、「お父さん。お母さん。今日〇〇大学を卒業し、これであなた方への義理は果たしました。明日からは自分のやりたいことをやっています。」と言って、翌日から服飾の専門学校に入学し、中卒・高卒の人と肩を並べて勉強したという。

世の中は確実に変わってきている。

私が大学に入ったころ、携帯電話のi-mode通信が始まり、就職活動では携帯電話に直接、企業の人事担当者から電話がかかってきました。就職活動はインターネットの普及により、『先輩訪問』が減り、『会社はネットで検索し、エントリーシートで応募する』時代になりました。その後、インターンシップ（学生のうちに就労体験すること）をする企業がだんだん増えていきました。

ここに載っている『ある会社の新入社員への話』と同じことを私の友人たちも言われていたそうです。この新型コロナウイルス感染症の流行により、さらに企業の採用形態や就職活動そのものも変わっていくと思います。企業がほしい人材である「一緒に仕事をしたいと思われる人間性をもった人」になるために、高校でいろんな経験を積んで自分を磨いてほしいと思います。そのためには、高校選びをしっかりとしてほしいと思います。（タブチのつぶやき）